

本書の構成と利用法

■本書の構成

この問題集は、全国の国公立大の試験問題から精選した二十題の良問を、ジャンル別に配列した、記述トレーニング用の問題集です。

各問題の解答・解説は、駿台予備学校現代文科講師が新規に書き下ろしています。これに、各大学の試験時間・配点をもとに割り出した〈制限時間・配点〉や、難易度の目安（★☆☆標準レベル・★★☆やや難レベル・★★★難レベル）、さらに〈採点基準〉を加え、実戦的な練習ができるように編集してあります。

ここに収められた二十題（評論十二題・随筆四題・小説四題）に取り組むことで、国公立大を突破するために必要な、文章読解力と記述表現力を養い、志望校合格を果たされることを願ってやみません。

■本書の利用法

① まず、〈問題編〉の最初に示した〈制限時間〉内で、ひとり問題とひとりで問題を解いてください。

——これは〈速く解く〉ための練習です。

② 次に、同じ問題について、時間を気にせず、もう一度じっくり読んでください。本文の理解が深まったところで、記述解答

についても、よりよい解答にできないかどうか、考え直してみよう。

——これは〈きちんと考えて解く〉ための練習です。①と②とをくりかえすうちに、二つの力が結びつき、〈速く、きちんと考えて解く〉ことができるようになります。

③ 最後に、〈解説編〉を見て、〈解答・採点基準・解説〉を参考に、自分の答案を採点・添削してみよう。

——これは、自分の答案の欠点を自分で見つけ、修正する練習です。この練習をくりかえし、〈自分の答案を添削する力〉をつけてゆくことが、つまりは記述表現力を高めることになるのです。よりよい答案を書く力とは、試験時間中に自分の答案を（頭の中で）添削できる力なのです。

④ 漢字などの知識設問で誤ったものについては、その日のうちに復習し、覚えておくようにしましょう。読解設問については、しばらく日をおいて（解答・解説の内容を忘れたところに）もう一度同じ手順でやり直してみるのが効果的です。

——各問題の本文は、いずれも入試頻出のテーマ・主題を扱ったものです。したがって、本文自体をくりかえし読み、テーマ・主題についての理解を深めることも、意義のある復習となるでしょう。

目次

■評論

1	日本人の発想、日本語の表現	森田 良行	……	6
2	グローバルゼーションと日本文化	河合 隼雄	……	9
3	小説	小林 秀雄	……	12
4	逆説思考	森下 伸也	……	15
5	生きるための経済学	安富 歩	……	20
6	情報社会と人間	桂木 隆夫	……	25
7	いま哲学とはなにか	岩田 靖夫	……	28
8	言葉によって言葉に逆らう	安部 公房	……	32
9	名前と人間	田中 克彦	……	35
10	友だち地獄	土井 隆義	……	41
11	風景の哲学	納富 信留	……	46
12	貨幣論	岩井 克人	……	50

■随筆

1	風土と哲学―日本民衆思想の基底へ―	内山 節	……	54
2	芝刈	寺田 寅彦	……	57
3	母の声、川の匂い	川田 順造	……	60
4	茶番に寄せて	坂口 安吾	……	64

■小説

1	こうばしい日々	江國 香織	……	68
2	風の又三郎	宮沢 賢治	……	72
3	星々の舟	村山 由佳	……	77
4	燃ゆる頬	堀 辰雄	……	82

◇◇問題出典◇◇

評論 1	和歌山大学	2	福島大学	3	奈良女子大学
4	新潟大学	5	静岡大学	6	横浜市立大学
7	大阪市立大学	8	宇都宮大学	9	秋田大学
10	金沢大学	11	お茶の水女子大学	12	広島大学
随筆 1	信州大学	2	徳島大学		
3	富山大学	4	佐賀大学		
小説 1	筑波大学	2	琉球大学		
3	岡山大学	4	千葉大学		

随筆 4

「茶番に寄せて」

坂口安吾

★★★

50 分
50 点

佐賀大
解説 83 ページ

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

日本には傑^{すく}れた道化芝居^{どうけ}が殆^{ほと}んど公演されたためしがない。文学の方でも、井伏鱒二という特異な名作家が存在はするが、一般に、批評家も作家も、編集者も読者もゲンシユクで、笑うことを好まぬという風がある。

僕はさきごろ「文体」編集の北原武夫から、思いきった戯作^{げさく}を書いてみないかという提案を受けた。かねて僕は戯作を愛し、落語であれ、漫才であれ、インチキレビユウの脚本であれ、頼まれれば、白昼も芸術として堂々通用のできるものを書いてみせるとタイゲンソウゴしていたことがあるものだから、紙面をさいてくれる気持になったのである。北原の意は有難いが、読者がそこまでついてきてくれるかどうかは疑わしい。けれども僕は、そのうち、思いきった戯作を書いて、読者^{けんざん}に見参するつもりである。

笑いは不合理を母胎^{ぼたい}にする。笑いの豪華さも、その不合理とか無意味のうちにあるのであろう。ところが何事も合理化せずいられぬ人々が存在して、笑いも亦合理的でなければならぬと考える。無意味なものにゲラゲラ笑^{たの}つて愉しむことができるのである。そうして、喜劇^Aには諷刺^{ふうし}がなければならぬという考えをもつ。

然^{しか}し、諷刺^Bは、笑いの豪華さに比べれば、極めて貧困なものである。諷刺する人の優越がある限り、諷刺の足場はいつも危く、その正体は貧困だ。諷刺は、諷刺される物と対等以上であり得ないが、それが揶揄^{やゆ}という正当ならぬ方法を用い、すでに自ら不当に高く構えこんでいる点で、物言わぬ諷刺の対象がいつも勝を占めている。

諷刺にも優越のない場合がある。諷刺者自身が同時に諷刺される者の側へ参加している場合がそうで、また、諷刺^ウがキヨムへ渡る橋にすぎない場合がそうだ。これらの場合は、諷刺の正体がすでに不合理に属しているから、もはや諷刺と言えないだろう。諷刺は本来笑いの合理性を掟^{おきて}とし、そこをフミハズ^エしてはならないのである。

道化の国では、警視総監が泥棒の親分だったりする。そのとき、警視総監の揶揄にとどまるものを諷刺という。即ち諷刺は対象への否定から出発する。これは道化の邪道である。むしろ贗物^{にせもの}なのである。

正しい道化は人間の存在自体が孕^{はら}んでいる不合理や矛盾の肯定からはじまる。警視総監が泥棒であっても、それを否定し揶揄するのではなく、そのような不合理自体を、合理化しきれないゆえに、肯定し、丸呑みにし、笑いという豪華なマジック^オによって、有耶無耶^{うやむや}のうちにそっくり昇天させようというのである。合理の世界が散々もてあました不合理を、もはや精根つきはてたので、突然不合理のまま丸呑みにして、笑いとはして丁おう^{しま}というわけである。

だから道化の本来は合理精神の休息だ。そこまでは合理の法でどうにか捌^{さば}きがついてきた。ここから先は、もう、どうにもならぬ。——という、ようやくと持ちこたえてきた合理精神の歯をくいしばったジューメン^カが、笑いの国では、突然赤禪^{あかぜん}ひとつになって、裸踊りをしているようなものである。それゆえ、笑いの高さ深さとは、笑いの直前まで、合理精神が不合理を合理化しようとしてどこまで努力してきたか。そうして、到頭^{とうとう}、どの点で兜^{かぶと}を脱いで投げ出してしまったかという程度による。

だから道化は戦い敗れた合理精神が、完全に不合理を肯定したときである。即ち、合理精神の悪戦苦闘を経験したことのない超人と、合理精神の悪戦苦闘に疲れ乍^{なが}らも決して休息を欲しない超人だけが、道化の笑いに鼻もひっかけずに済まされるのだ。道化はいつもその一歩手前のところまでは笑っていない。そこまでは合理の国で悪戦苦闘していたのである。突然ほうりだしたのだ。もしやくしやして、原料のまま、不合理を突きだしたのである。

道化は昨日は笑っていない。そうして、明日は笑っていない。一秒さきも一秒あとも、もう笑っていないが、道化芝居のあいだだけ、笑いのほかには何物もない。涙もないし、揶揄もないし、凄味^{すこみ}などというものもない。裏に物を企^{たくら}んでいる大それたコンタン^キは微塵^{みじん}もないのだ。ひそかに裏に諷しているしみつたれた精神もない。だから道化はジュンスイ^クな休みの時間だ。昨日まで営々^たと貯め込んだ百万円を、突然バラまいてしまう時である。惜しげもなく底をはたく時である。

問1 傍線部ア〜クのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部A「喜劇には諷刺がなければならないという考えをもつ」とあるが、何故、そのような考えをもつのか。「笑いは不合理を母胎にする」と述べていることに注意して説明しなさい。

問3 傍線部B「諷刺は、笑いの豪華さに比べれば、極めて貧困なもの」とあるが、何故、諷刺はそのようなものであるのか。「諷刺にも優越のない場合がある」と述べている点に注意しながら説明しなさい。

問4 傍線部C「道化の邪道」とはどういうことか。「諷刺は対象への否定から出発する」と述べている点に注意して説明しなさい。

問5 傍線部Dの意味するところを、「合理精神」という語を使って説明しなさい。

問6 文章全体を読んであなたの意見を述べなさい。

随筆4

「茶番に寄せて」 坂口安吾

得点

点

問
1

ア

オ

イ

カ

ウ

キ

エ

ク

問
2

問
3

問
6

問
5

問
4

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

随筆4 「茶番に寄せて」 坂口安吾

解 答

問1 アⅡ嚴肅 イⅡ大言壮語 ウⅡ虚無 エⅡ踏(み)外(し)

オⅡ魔術 カⅡ洪面 キⅡ魂胆 クⅡ純粹

問2 全てを合理化して考えたがる人は、笑いの持つ不合理や無意味さを認めようとはせず、諷刺として合理化すること、初めて喜劇に価値を見出すから。

問3 人間存在の孕む不合理や矛盾を、全てそのままに肯定する笑いの豊かさに対し、諷刺は自らも内包しうる不合理性を認めず、合理の世界で対象への優越性に自己満足しているだけだから。

問4 合理性に基づいて対象を否定することから始まる諷刺は、人間存在の孕む不合理や矛盾への肯定から出発する道化本来のあり方から外れているということ。

問5 合理精神が不合理を合理化しようと努力を重ね、ついに立ち行かなくなったとき、いきなりその不合理を完全に肯定し、笑いとばすのが道化だということ。

問6 人間は本来矛盾や不合理を孕む存在である。しかし現代社会はそのことへの寛容を失っているのではないだろうか？ 経済的合理主義に全ての人間を組み込んでいく近代文明は、そうしえぬものを排除する構造を持つ。そのことが招く精神の荒廃が、ときに凄惨な事件を引き起こしている。合理化の限界を認め、人間本来のあり方に

立ち返る契機となる道化のあり方を、各人がその身に引き受けていくことが、心にゆとりを取り戻させ、社会全体を豊かにする一つの処方箋になるように私には思えてならない。

配点・採点基準

(50点)

問1 (各1点)

◇ 解答通り。字画のあまりに乱雑なもの・不正確なものは不可。

問2 (8点)

◇ ① 〈全てを合理化して考えたがる人〉という要素…2点

▼ 〈全て〉を欠くもの、マイナス1点。

② 〈笑いの持つ不合理や無意味さを認めようとはせず〉という要素…2点

▼ 〈不合理〉と〈無意味さ〉片方でも可。

▼ 〈笑いも亦合理的でなければならぬ〉で書いたものも可。

③ 〈諷刺として合理化すること、初めて喜劇に価値を見出す〉という要素…4点

▼ 前半は〈諷刺は本来笑いの合理性を掟とし〉を使って書いても可。〈諷刺〉の〈合理性〉について言及があればよい(②とは〈合理性〉が〈笑い〉について書かれたものか、〈諷刺〉についてかで区別する)。〈初めて喜劇に価値を見出す〉の要素を欠くものはマイナス2点。

▼ 末尾が理由説明に対応していないもの…マイナス1点。

問3 (9点)

◇ ① 〈人間存在の孕む不合理や矛盾を、全てそのままに肯定する笑いの豊かさ〉という要素…3点

▼ 〈不合理〉と〈矛盾〉片方でも可。〈笑いは不合理を肯定する(母胎にする)〉という意味あいがあればよい。

▼ 〈全て〉と〈そのままに〉は片方で可だが、どちらの要素も欠くもの、

マイナス1点。

- ②〈諷刺は自らも内包しうる不合理性を認めず〉という要素：2点

▼〈諷刺者自身が同時に諷刺される者の側へ参加している〉や〈諷刺がキョムへ渡る橋にすぎない〉で書いたものはマイナス1点。〈諷刺の正体がすでに不合理に属している〉も、わかりづらく使われている場合、表現未熟としてマイナス1点。

- ③〈合理の世界で対象への優越性に自己満足しているだけだ〉という要素：4点

▼〈合理の世界で……自己満足する〉という内容が必須。同内容は広く認める。

▼〈優越〉の要素を欠くもの、マイナス2点。

▼末尾が理由説明に対応していないもの：マイナス1点。

問4 (6点)

- ◇①〈合理性に基づいて対象を否定することから始まる諷刺〉の要素：2点

▼〈合理性〉〈対象への否定から出発する〉両方の要素が必須。

- ②〈道化は〉人間存在の孕む不合理や矛盾への肯定から出発する」という要素：2点

▼〈人間の持つ不合理を肯定する〉という意味あいのあることが必須。

▼〈不合理〉と〈矛盾〉片方のもの、マイナス1点。

- ③〈道化本来のあり方から外れている〉という要素：2点

▼「邪道」を適切に言い換えてあれば可。

問5 (9点)

- ◇①〈合理精神が不合理を合理化しよう〉という要素：3点

▼指定語句である〈合理精神〉は他の箇所が使われていても可。

- ②〈努力を重ね、ついに立ち行かなくなったとき〉という要素：2点

▼〈ここから先はどうにもならぬ〉〈もはや精根つきはてた〉など、〈ぎりぎりまで努力した〉というニュアンスがあれば可。

- ③〈いきなりその不合理を完全に肯定し〉という要素：2点

▼〈丸呑みにする〉〈そっくり昇天させる〉など比喩表現を使ったものはマイナス1点。

▼〈いきなり〉の要素を欠くもの、マイナス1点。

▼〈完全に〉の要素を欠くもの、マイナス1点。

- ④〈笑いとばすのが道化だ〉という要素：2点

▼〈道化〉を欠くものはマイナス1点だが、解答中のどこかに使われていれば可。

問6 (10点)

- ◇①人間の持つ「不合理や矛盾」を、「合理化」しようと努力した果てに肯定する、「笑い」や「道化」に関する内容であることが必須：5点

▼内容に応じて適宜減点。

- ②自分の考えを論理的に展開し、結論を導き出していること：5点

▼内容に応じて適宜減点。

▼表記・表現上の未熟は一箇所につきマイナス1～2点。

出典

坂口安吾「茶番に寄せて」(『散る日本』(一九七三年角川文庫)所収、
『坂口安吾選集』(第一巻・『日本文化私観』(一九九六年講談社文芸文庫)
再録)の一節。

坂口安吾は、一九〇六年新潟県生まれ。東洋大学印度哲学科卒。太宰治や石川淳らと並んで無頼派の作家として知られる。戦後世相の退廃と墮落の中に、切ない倫理を模索する作品を数多く残している。『墮落論』『白痴』『桜の森の満開の下』『青鬼の禪を洗う女』等、著書多数。

解説

本文は全部で十の形式段落からなり(以下①～⑩と表記する)、内容上(1)序①②、(2)笑いと諷刺③④⑤、(3)道化とは何か⑥⑦

⑩の三つに分けて捉えることができる。以下順に内容を見ていこう。

(1) 序 (①)~(②)

▽文学の世界には笑いを好まないという風潮がある。
▽編集者から思い切った戯作を書いてみないかという提案を受けた。読者がついてきてくれるかは分からないが、いつか実現して見参したいと思っている。

(2) 笑い と 諷刺 (③)~(⑤)

▽笑いは不合理を母胎にする
▽笑いの豪華さも不合理や無意味のうちにある

▽何事も合理化せずにいられぬ人々

▽笑いも合理的でなければならぬと考える

▽喜劇には諷刺がなければならぬという考えをもつ

▽笑いの豪華さ

▽諷刺は極めて貧困である

▽諷刺する人の優越がある限り、諷刺の足場はもろく貧困
▽揶揄を用い自ら不当に高く構えこんでいる点で、諷刺の対象の方がいつも勝ちを占める

▽諷刺に優越のない場合

▽諷刺の正体がすでに不合理に属し
諷刺と言えない

▽諷刺は本来笑いの合理性を掟とする

〈ポイント1〉

笑いが不合理や無意味さのうちにあるのに対し、諷刺は笑いの合理性を掟とする。そのため何事も合理化せずにはいられぬ人々は、喜劇にも諷刺がなければならぬと考えるが、諷刺には諷刺する人の自己満足に満ちた優越があるため、極めて貧困なものではないというのが筆者の主張である。

(3) 道化とは何か (⑥)~(⑩)

▽諷刺は対象への否定から出発するが、これは道化の邪道である。

▽正しい道化は人間の存在自体が孕む不合理や矛盾の肯定からはじまる。

▽不合理自体を合理化しきれないゆえに、肯定し、丸呑みにし、笑いという豪華なマジックによって、有耶無耶のうちにそっくり昇天させようというのが道化である。

▽合理の世界が散々もてあました不合理を、もはや精根つきはたので、突然不合理のまま丸呑みにして、笑いとはして了解とするのが道化である。

▽道化の本来は合理精神の休息。

▽笑いの高さ深さとは、笑いの直前まで、合理精神が不合理を合理化しようとしてどこまで努力してきたかによる。

▽道化は戦いに敗れた合理精神が、完全に不合理を肯定したときである。

〈ポイント2〉

合理精神が不合理を合理化しようと努力した果てに、もはや立ち行かなくなつて、突然不合理を全てそのままに肯定して笑いとはすのが道化であり、その意味で道化は人間存在の孕む不合理や矛盾を肯定することから始まるのである、というのが(3)の要旨。(2)で述べた、「笑いは不合理と無意味のうちにある」という内容を受け、話題を「道化」へと展開している文章の流れを読み取ろう。

問1 ア「ゲンシユク」は「厳肅」で「おごそかで、心が引き締まるさま」の意。「厳」の訓は「おごそ(か)」「肅」の字を間違わないよう注意すること。

イ「タイゲンソウゴ」は「大言壮語」で「できそうなことや威勢のいいことを言うこと」の意。

ウ「キヨム」は「虚無」で「何も存在せず空虚なこと、価値のある本質的なものの存在しないこと」の意。ここでは「本質的な意味が何も存在しないこと」くらいの意で用いている。「虚」の訓は「むな(しい)」で「から、中味のないこと」の意を持つ。

エ「フミハズシ」は「踏み外し」。「踏み外す」は「踏みそこなう・常道や正道からはずれた行いをする」意。「踏」の音は「トウ」。「舞踏」「雑踏」「踏襲」「踏破」など。

オ「マジユツ」は「魔術」。「魔」の字を正しく書くこと。

カ「ジュウメン」は「洪面」で「不愉快そうな顔つき、しかめつら」の意。「洪」の訓が「洪(い)」で、「面」の訓が「つら」なので、そこから意味を類推できるだろう。

キ「コンタン」は「魂胆」。「魂」の訓は「たましい」。「胆」の訓は「きも」で、こちらも「たましい」の意を持つ。つまり「魂胆」はもともと「たましい、きもったま」の意。そこから「心の中に隠されたたくらみ、策略」の意に用いられるようになる。

ク「ジュンスイ」は「純粹」で「混じりけのないこと・けがれのないこと」の意。

問2 問題文の解説(2)から解答に関わる箇所を再掲してみよう。

▽笑いは不合理を母胎にする

▽笑いの豪華さも不合理や無意味のうちにある

↑

▽何事も合理化せずにいられぬ人々

▼笑いは合理的でなければならぬと考える

▼喜劇には諷刺がなければならないという考えをもつ

...

▽諷刺は本来笑いの合理性を掟とする

右図を見れば分かるように、笑いは本来「不合理や無意味のうちにある」のだが、「何事も合理化せずにいられぬ人々」は「笑いも亦合理的でなければならぬ」と考え、「笑いの合理性を掟」とする諷刺があつて初めて「喜劇」にも意味があるとするのである。以上の内容をわかりやすくまとめていく。

問3 再び問題文の解説(2)から、解答に関わる箇所を再掲しよう。

▽笑いは不合理を母胎にする

▽笑いの豪華さも不合理や無意味のうちにある

▽笑いの豪華さ

↑

▽諷刺は極めて貧困である

▼諷刺する人の優越がある限り、諷刺の足場はもろく貧困
▼揶揄を用い自ら不当に高く構えこんでいる点で、諷刺の対象の方がいつも勝ちを占める

↑

▽諷刺に優越のない場合

▼諷刺の正体がすでに不合理に属し

諷刺と言えない

↑

▽諷刺は本来笑いの合理性を掟とする

「笑いの豪華さ」は「不合理や無意味」、すなわち⑦でいう「合理化しきれない」「人間の存在自体が孕んでいる不合理や矛盾」を肯定することにあるのに、「諷刺」は「合理性を掟」として狭いレベルにとどまり、「諷刺」する対象より「自らを不当に高く構えこんで」、「優越」感に浸っているだけなので、「極めて貧困なもの」だと筆者は述べたのである。どんなに「優越」感に浸ろうと、「諷刺」にも優越のない場合があり、自らも「不合理に属」することもありうるのに、その可能性を認めようとはしない視野の狭さを筆者は批判しているのである。

問4 まずは傍線部の前後に着目する。「対象への否定から出発する」諷刺が「道化の邪道」であるなら、これと対立するものが「道化」の内容に相当すると考えればよい。そうすれば⑦の冒頭にある一文、「正しい道化は人間存在自体の孕んでいる不合理や矛盾の肯定からはじまる」が解答箇所として着目されてくるだろう。また問3で見たように、諷刺は「合理性を掟」とするため、この「不合理や矛盾を肯定」する「道化」とは相容れないのである。以上の内容をまとめていく。

問5 比喩表現に関する設問は、本文中のこういった内容に対する比喩なのかを読み解いていくのがポイント。傍線部Dにある「昨日まで営々と貯めこんだ百万円を、突然バラまいてしまう」のは、直前にあるように「道化」の行動を指している。よって本文中の「道化」の説明に、同等の内容を求めていくことになる。⑨の最後に着目しよう。「道化は……合理の国で悪戦苦闘していたのである。突然ほうりだしたのだ。もしゃくしゃくして、原料のまま、不合理を突きだしたのである」の「突然ほうりだ」すが、傍線部の「突然バラまいてしまう」に対応している。つまりは「合理的に説明をつけようと努力した果てに、「突然」「不合理」のまま対象を「ほうりだ」してしまう、というのが傍線部の意味だということになる。それが分かれば、後はその内容に関する叙述を本文に求

めていけばよい。問題文の解説(3)から該当箇所を再掲してみよう。
▽不合理自体を合理化しきれないゆえに、肯定し、丸呑みにし、笑いと
いう豪華なマジックによって、有耶無耶のうちにそっくり昇天させよ
うというのが道化である。

▽合理の世界が散々もてあました不合理を、もはや精根つきはたので、
突然不合理のまま丸呑みにして、笑いとはして丁おうとするのが道化
である。

▽笑いの高さ深さとは、笑いの直前まで、合理精神が不合理を合理化し
ようとしてどこまで努力してきたかによる。

▽道化は戦いに敗れた合理精神が、完全に不合理を肯定したときである。
こう並べてみると、同様の内容が何度も繰り返し使われていることが分か
るだろう。指定語句である「合理精神」を必ず用い、比喩表現は使わぬ
よう注意して、右の内容をわかりやすくまとめていく。

問6 「人間存在自体の孕んでいる不合理や矛盾」を「合理化」の努力
の果てに「肯定」する、「道化」や「笑い」に対する内容であることが
必須。字数指定はないが、むだな繰り返しをしてだらだらといたずらに
長く書いたり、本文を単になぞっただけのものになったりしないよう注
意しよう。筆者の論に対する肯定あるいは否定の意見を明確に出してい
きたい。全体を〈序・本・結〉〈起・承・転・結〉などの形で構成して
いくことも重要。